

【永光寺文書】 鹿島郡

一五三

仰給候、能登國酒井保内山野事此内新田、利忠去嘉元二年九月六日令讓渡于舍弟章兼旨讓狀無相違候。於彼分者、聊不可及惣領違亂煩候。且彼讓狀案文仁、封裏令進之候。而章兼避渡□領於平氏女海野信直妻候上者、可被請取候。更不可有子細候。被申安堵之時者、可存其旨候。恐々謹言。

延慶三年七月廿九日

(酒井) 左衛門尉利忠 在判

謹上 海野三郎殿

八月三日。酒井章兼、その所領鹿島郡酒井保内の山野を海野信直の妻に沽却す。

【永光寺文書】 鹿島郡

一五四

与三賣券

賣渡 能登國酒井保内山野事

四至 限西大井頭ヲ小田尻ヲヤトメワラノサカラノ

ノミネヨリ本境ノマ、ニクマノタニ頭ヲ大粟

(生) ウノ道マデ、東大粟生ノ道ヨリ、南ヲカワクダリ

大井頭マデ。但此内新田畠在之。

右山野者、章兼重代相傳之私領也。而依有要用、以代錢拾漆貫文、限永代指四至境、所令沽渡于平氏女也。更不可有他妨者也。但爲後證手續證文等案文、封裏令副渡畢。於正文者、其外之屋敷名田爲一帛狀之間所渡案文也。可入正文者、披見事云章兼云子々孫々不可惜之。仍沽券狀如件。

延慶三年八月三日

藤原章兼 在判

(裏書) 爲後證封裏也

文保元年三月廿三日

(四至に就いては、元亨三年三月七日附文書を参照すべし。)

【永光寺文書】

一五五

賣渡 能登國酒井保内地頭職山野田畠等事

限

各身可蒙之狀如件。

延慶三年八月十二日

承仕 榮 賢 在判

(此間二百九十八略)

元龜三年十二月廿五日

承仕 忠 逕 在判

八月廿八日。酒井利忠、その所領鹿島郡酒井保内の山野を海野信直の妻に沽却す。

【永光寺文書】 鹿島郡

一五七

賣渡 能登國酒井保内地頭職山野新田畠等事

四至 限東中山塚 限南若部塚

限西大粟畠道 限北熊谷峰通至于中山塚

右山野田畠等者、利忠重代相傳之御家人領也。而依有要用、以代錢拾伍貫文、限永代立四至塚、所令沽渡于平氏女也。更不可有他妨者也。且爲後證、手續證文安堵之御下文已下狀等、封裏所令副渡也。可入正文者、披見事云利忠云子々孫々、不可有異儀。若至彼山野以下等、云利忠云子々孫々、背此沽券(致)至違亂煩者、知行之分山野田畠等、相當彼分之程可被知行也。仍沽券狀如

右彼山野新田畠等者、章兼重代□之所帶也。

(聽) 与平氏女也。更不可有他妨。若章兼之子々

孫々之中仁、至彼山野以下等致違亂煩者、章兼之知行之分、不殘段歩收被申、不可及一口之論。仍去狀如件。

延慶參年八月三日

藤原□□

八月十二日。石川郡白山宮莊嚴講衆、衆議に服すべきことを誓ふ。

【白山比咩神社文書】 石川郡

一五六

講衆一同契約起請文事。

件元者、結衆一致之評定上者、縱雖令坊主一親等制誠敢以順彼命不可背一衆儀者也。於令違犯仁者、可爲惣敵對也。尙以背此旨者、

上奉始梵天帝釋、下難陀跋難陀、殊白山三所權現御請於